

『みとっ歩 - ゼロから始める水戸生活 - vol.3』 制作プロジェクト

教育学部学校教育教員養成課程 3年 阪井一仁

連携先

水戸市市長公室みとの魅力発信課

顧問教員

西野 由希子(人文社会科学部・教授)

参加者

大村 みるほ

(教育学部情報文化課程 4年)

高田 美菜

(人文学部人文コミュニケーション学科 4年)

阪井 一仁

(教育学部学校教育教員養成課程 3年)

関沢 南

(人文社会科学部現代社会学科 2年)

藤川 尚

(人文社会科学部現代社会学科 2年)

小野崎 邦彦

(人文社会科学部現代社会学科 1年)

山口 二千翔

(人文社会科学部法律経済学科 1年)

プロジェクトの概要

・背景

本プロジェクトは、2017年に水戸市より「水戸市外出身の大学生の目線で水戸市の観光パンフレットを制作してほしい」と茨城大学の学生に依頼があったことからスタートした。その観光パンフレットは、およそ1年をかけて2018年の3月に発行、茨城新聞にも掲載された。その後、『みとっ歩』の一作目では取材できる店に限りがあり、水

戸の「良さ」を発信するには不十分であると感じられたこと、編集員一同この活動を一回きりのものとするのは非常に勿体無いとの思いがあったことから、一昨年、学生地域参画プロジェクトに参加し、第二号を発行したが、それが予想以上に好評であった。そのため、第二号をより進化させるため、第三号を制作した。

・プロジェクトの内容

本プロジェクトは、「フリーペーパー」という形で、新しく水戸に来る大学生へ水戸の魅力を発信するものである。

プロジェクト実施にあたっては、記事作成のため合計10箇所取材を申し込んだ。それぞれ約1時間をかけ、「水戸でお店を続けてきて思うこと」「お店を続けることでわかった、水戸の良い点・悪い点」「大学生へ一言」などを深掘りし、それを文章とした。その後、PhotoshopやIllustratorを使用し、記事ページを作成した。今回、掲載にはお店以外にも、街中にある神社や公共施設を取り入れた。これは、大学生へ「街の人々が紡いできた歴史に関心をもつ」ことを喚起することを狙った。

(以下、参考画像)

写真1 取材風景 (ふ和ら様にて)



写真2 『みとっ歩』表紙



写真3 8-9ページ。「大学生に一言！」など、レイアウトを工夫した。



写真4 12-13ページ。(街の人々に愛され、受け継がれ続けてきた神社等を取材した。)



・活動日程

2019年6月(学プロ採択後)~8月:取材先選定, 冊子レイアウト構想策定

2019年8月~2020年1月:取材開始及び記事・ページ作成, 冊子レイアウト決定, SNS運営(Twitter, Instagram, Note)

2020年2月:記事・ページ校正, 冊子印刷, SNS運営(Twitter, Instagram, Note)

・プロジェクトの目的

新しく水戸に住む学生(大学生・専門学生)に水戸の魅力を発信することで, 水戸の街に興味・愛着を湧かせ, 地域(水戸)の活性化に貢献すること。また, 新しく水戸に来る大学生の, 街中に繰り出す「ハードル」を下げること。

プロジェクトの成果報告

・プロジェクトの成果

『みとっ歩 -ゼロから始める水戸生活- vol.3』5000部発行。

(内訳)

水戸市観光案内所 1500部(予定)

水戸市公共機関 2000部

茨城大学, 常磐大学 計800部(予定)

取材先 (11箇所) 550部

その他 150部

また, Twitter (@mitoppo), Instagram (@mitoppo_official), Note(ブログ)にて

取材先の情報, 未使用写真, 取材時の裏話, 制作した感想などを始めとした情報を発信している。

・今後の課題

今回のプロジェクトでは, 特に「街中の歴史」を読み取ることができた。それは, 取材

先の一つである「金刀比羅神社」によるところが大きい。そこでは、神社が建立された経緯などを語り継ぐ方が高齢化などで少なくなっておられた。また、語り継ぐ機会も、数少ないというお話も伺った。次号、制作する際には、店舗だけではなく「語り継ぐ」という目線で水戸の街中の情報をまとめていくことが課題と思われる。

・今後の展望

今後、まず Photoshop や Illustrator などの技術を高めることが目標として挙げられる。そのほか、「今後の課題」で述べたように、「水戸の街中の歴史」の情報をまとめた。それも、年表的な歴史ではなく、「生の声」を重視したものとした。これまで、冊子を制作してきて、ささやかながら「情報発信者」として「記録を後世に残す」体験をした。水戸の「裏」にある様々な「人の思い」を、情報として受け継げるような冊子を再作していきたい。